

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名 称：オープンサイエンス、データ駆動型研究が変える科学と社会—G7 コミュニケを読み解く

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：
共催：国立情報学研究所

3 開催日時：令和5年6月26日(月)13:30～17:00
6月27日(火)9:40～17:30

4 開催場所：日本学術会議講堂（オンライン併用）

5 開催趣旨：2023年7月に行われたG7科学技術大臣会合、および、G7広島サミットのコミュニケで、オープンサイエンスの推進が明記された。科学研究の健全な発展のためには、開放性、自由及び包摂性が世界的に強化されなければならないことを認識し、学問の自由、研究のインテグリティ、プライバシー、知的財産権の保護に関する原則と規則が適用されるべきであるとしている。

これに先駆けて、日本学術会議は総合科学技術・イノベーション会議からの審議依頼を受けて、2022年末に「回答：研究DXの推進—特にオープンサイエンス、データ利活用推進の視点から—に関する審議について」を発出した。この回答では、研究データの共有・公開も含めたオープンサイエンスに対する日本学術会議としての考え方を示し、大学等研究機関における研究データ管理・利活用のための課題の整理と具体的方策に関する提言、ならびに、各分野の多様性を踏まえ、今後のデータ駆動型科学の振興のために考慮すべき事項についての提言を行った。

このフォーラムでは、この一連の動きの背景にある、オープンサイエンスとデータ駆動型研究の可能性を改めて啓発し、また、先導事例を通じてアカデミアと関係者の具体的な行動変容に繋げる。加えて、学術の持つ本来の多様性と本質を踏まえ、今回の回答の構成上、触れることが難しかった視点や論点なども紹介し、学術と社会の将来に向けた多角的な議論を行い、明日の学術と社会を創る原動力を生み出すことを目的とする。

6 参加人数：

【1日目】 講演者等： 9名、その他の参加者： 現地参加 24名
オンライン参加 341名

【2日目】 講演者等： 14名、その他の参加者： 現地参加 18名
オンライン参加 255名

7 特記事項：

AIとデータ駆動型科学ならびに研究の自動化(ARW)に着目したシンポジウムを、9/1にて開催予定。